

2016年6月23日
国境なき医師団 (MSF)

ナイジェリア：北東部バマで 2 万 4000 人の国内避難民が危機的状況に

ナイジェリア北東部、ボルノ州の町バマにある国内避難民キャンプで、壊滅的な人道危機が発生している。6 月 21 日に同町を訪れた国境なき医師団 (MSF) の医療チームは、地元病院の敷地内に子ども 1 万 5000 人を含む 2 万 4000 人が身を寄せ、子どものうち 4500 人は 5 歳未満児であることを確認。キャンプの状況が保健上の危機にあると判断し、危篤状態の重度栄養失調児 16 人を 80km ほど離れた同州都マイドゥグリで運営する入院栄養治療センターに移送した。簡易な栄養検査を児童 800 人余りに実施したところ、19%が栄養失調の中でも特に致命的な重度急性栄養失調に罹患していることもわかった。

1 日 30 人が命を落とす日も

ナイジェリアで MSF 活動責任者を務めるガダ・ハティムは、「MSF がバマに立ち入れたのは今回が初めてですが、人びとの差し迫ったニーズはすぐに把握できました。現在、マイドゥグリで治療している栄養失調児の顔には、さまざまな惨劇を目撃、体験したことによる心の傷が浮かんでいます」と話す。

MSF チームはバマの町を調査した際、避難キャンプの近くで 1233 もの墓を確認。それらは過去 1 年間に掘られたもので、うち 480 基には子どもが埋葬されていた。

バマは大部分が閉鎖状態にあり、MSF は町の人びとが致命的な飢餓状態であるという情報を得ていた。避難者から MSF に寄せられた話によると、毎日のように新しい墓が増え、飢餓や病気で 1 日 30 人以上が亡くなっていく日もあるという。

5 月 23 日以降、避難キャンプでは少なくとも 188 人が死亡。1 日平均 6 人が命を落としている事態で、死因は下痢と栄養失調が多い。

高い「重度栄養失調」の罹患率

6 月 13～15 日には、ナイジェリア当局と国内 NGO が、医療の必要な 1192 人をバマからマイドゥグリにある「キャンプ・ナーシング」と呼ばれる国内避難民キャンプに退避させた。この 1192 人は女性と子どもが中心で、MSF が検査した 466 人の子どものうち、66%がやせ衰え、39%が重度栄養失調に陥っていた。診察の結果、MSF は 78 人を入院治療も可能なベッド数 86 床の栄養治療センターで受け入れた。

MSF は 2014 年 5 月からマイドゥグリに駐在。それぞれ 2 軒の病院、診療所、避難キャンプ内診療所を

支援し、避難者は無償で診療が受けられる。直近の数ヵ月は、マイドゥグリ周辺のキャンプに、給水と最低限の衛生環境を提供する活動を展開し、滞在者の疫学的監視を続けている。2015 年には、診療 11 万 6300 件、分娩介助 1330 件、栄養失調児 6000 人に対応した。

以上

本件に関するお問い合わせ先：

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 広報担当：舘 俊平／趙 潤華

TEL：03-5286-6141／6153 携帯：090-5759-1983 FAX：03-5286-6124

E-mail: press@tokyo.msf.org <http://www.msf.or.jp>

メディア向けツイッターアカウント開設しました。  @MSFJ_Press